

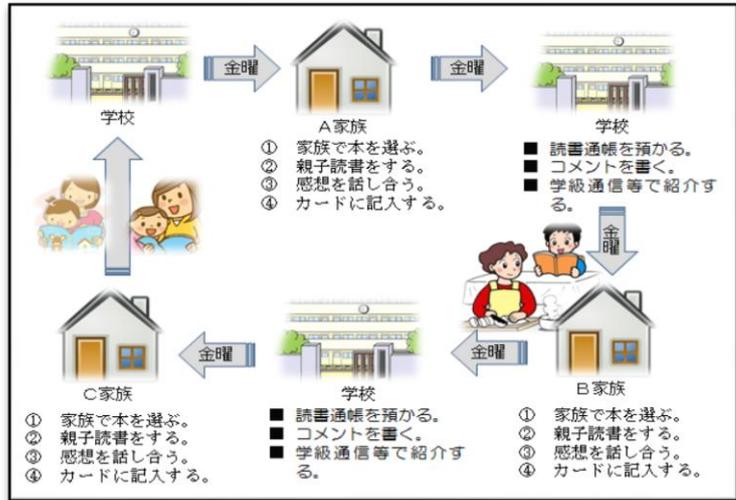
# 「親子読書通帳」(親子読書感想カード)

文化委員会を主体として年間を通じて行う、家庭での親子読書活動をおこなった。

親しみやすいネーミングにするために、家庭で親子一緒に読書をする活動のことを「家読」(うちどく)と称して、6月から全校で取り組んだ。

流れは右のとおりである。1ヶ月で4家族通帳が回ってくるので、年間数回は取り組むことができた。

▼ 日記から抜粋(4年生)



10月 15日 日曜日 名前( )

題名 灰かぶり 作者名 グリム

(児童) 女の子は、いつも「ママと「ぎり」のお姉さん2人に「いじめられてかわいそうだ」と思いました。きれいな着物を着ると、ぬがされてネズミ色の古い着物を着せられ、重い木

(保護者) シンデレラのはずかしの話ですが、魔世もかぼらの馬車も出てきません！かわりに鳥にらや、衣装と靴を準備したり、お手伝いをしてくれたり、不思議な事がおきます。最後はやはりお姉さん達「ばら」があたり、因果応報を教えてください。本はよんでね!!

つをよかされました。この話をよんで「いじめられてかわいそうだ」と思いました。そしていじめはいいことではないし、やめた方がいいと思いました。

---

11月 1日 水曜日 名前( )

題名 おばあさんのしんぶん 作者名 木本春野・岩国哲人

(児童) せんそう後のますしい時代に新聞がよめたいけどよめない子どもによませてあげたおじいさん、おばあさんのやさしさがすばらしいなあと思いました。

(保護者) 戦後の貧しい時代に、新聞を読みたくてもお金がなく読めない少年に新聞を読ませてあげたおじいさんの優しさ。おじいさんのせき後、自分は字を読めないので新聞を取り続け、少年に読ませてあげたおばあさんの優しさ。おばあさんが亡くなった後に自分のためにおじいさんが新聞を取っていてくれた事を知った時の少年の涙に、私も読んで涙流した。人の優しさを感じずばらしい本です。

先を読んて

## ▼ 文化活動委員から出された「家読」呼びかけ文書（6月）

平成29年6月2日

保護者様

湯前小学校PTA会長  
文化活動委員長藤岡 教顕  
恒松 高広みなさん、  
「家読(うちどく)」しましょう。

湯前小学校では、今年度も金曜日の朝自習に読書の時間を設けたり、読書週間の取り組み（読み聞かせなど）を行うことで子どもたちに、本を読む習慣をしっかりと身につけてもらおうと取り組んでいます。また、毎月、第4金曜日には、なすなの会の方による読み聞かせも行われ、本好きな子どもを育てるために地域の方にも協力していただいています。

さてここ何年も、PTA文化活動委員会では、「家読」の推進に取り組んでいます。家読とは「家庭での読書」の略称で、家庭で親子一緒に読書をする活動のことです。今年度も、「週末読書デー」の推進と「親子読書感想カード」に取り組むことにしました。

親子読書感想カードの名前は「親子読書通帳」とし、各学年で感想を「積み立て」ていきたいと思ひます。

読書は、新しいことを知ったり、自分の知らない世界について知ることができます。またさまざまな登場人物に寄り添って読むことで、心も豊かにできます。お家の方のご協力で、家読をする人が増え、さらに本好きな子どもさんが増えることを期待して今年度も家読に取り組むたいと思ひます。お忙しい中ですが、湯前の子どものため、ご協力よろしくお願ひいたします。

## 「親子読書通帳」について

- 金曜日にファイルを子どもが持って帰ってきます。次の金曜までに親子で読書をして、感想を書き、学校に持たせてください。
- 感想は親子それぞれ又はいっしょに書く・親だけ、又は子どもだけ書くどれでもいいです。で、必ず書いてください。内容は「本の感想」「親子読書の感想」「本の紹介」など自由です。
- 本は「親子一緒の本」「親子それぞれの本」「読み聞かせ」など自由です

湯前小学校では、6月と10月に読書旬間として、今年度も様々な取り組みをします。その取り組みの一環として、今回も文化活動委員さん、保護者の方による読み聞かせを行う計画です。保護者の方で読み聞かせのできる方は、連絡をお願いします。

- 時間：8：15～8：30（15分ほど）
- 本の選定は自由です。（時間のある時に、学校の図書室をのぞかれています。）
- 読書週間の時、給食時間に読書通帳から本の感想を紹介したいと思ひています。子どもたちに、わかりやすい言葉を使って書いていただくと助かります。

※読書ファイルは次の週の金曜日までに 必ず、担任の先生に返却ください。

# 「ノーテレビ・ノーゲームデー」

昨年度末の「家庭教育通信」は以下のとおりである。

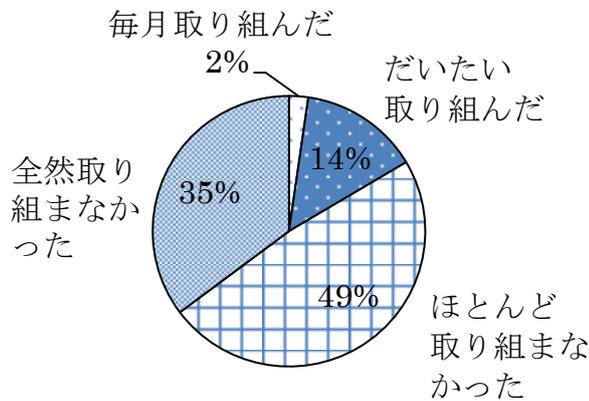
家族団らんなどができたり読書ができたりと成果があったものの、取り組まなかった家庭が8割あることがわかった。

そこで、本年度は「ノーテレビ・ノーゲームデー」の意義や実施についての啓発を計画的に行うこととした。

具体的には、小中学校合同で毎月5日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」に設定し、町内での統一化を図るとともに、町防災無線にて前日夕方及び当時朝に、中学生のアナウンスを流し啓発に努めているところである。

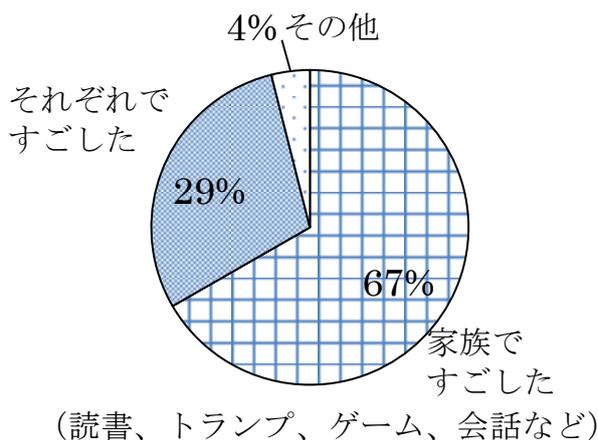
## 家庭教育通信

### 【ノーテレビ・ノーゲームデーについて】

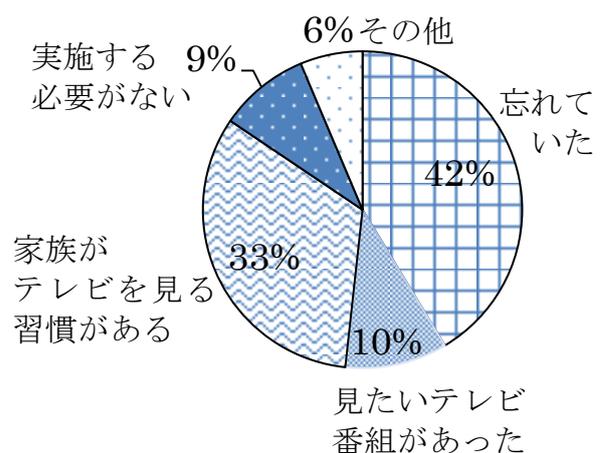


ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組まれたご家庭が16%、取り組まなかったご家庭が84%という結果でした。

### ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組んだときの過ごし方について



### ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組まなかった理由



### 【 取り組まれての感想 】

- テレビがついていると会話がなくなるが、ついていないと子どもたちが遊んでいるのが耳に入り家事をしながらも会話をする事ができた。
- 家族で会話をして良い時間をもてた。テレビを見る時間を考えるようになった。
- 時々しか取り組めなかったが、お互いの顔を見て話す事ができた。